

# 着物雜考

林芙美子

青空文庫



あわせ  
 袷あわせから単衣ひとえに変わるセルの代用に、私の娘の頃には、ところどころ赤のはいった紺こん紺がすり

を着せられたものですが、あれはなかなかいいものだと思います。色の白いひとにも、色の黒いひとにも紺の紺と云うものはなかなかよく似合ったもので、五月頃の青葉になると、早く紺を着せてくれと私はよく母親へせがんだものでした。洗えば洗うほど紺地と白い紺がぱつと鮮かになつて、それだけ青葉の季節を感じます。

昔、下谷したやの下宿にいました頃、下宿のお上かみさんが、「あのひとは染そめのいい紺を着ていたからいい家の息子に違いない」などと、部屋を見に来る学生のなりふりを見てこう云つておりましたが、なるほど面白いなと思いました。

一口に紺紺と云つても染のいいのはなかなか高価でしたが、その頃は仕事も現在のよう  
 にラフでないせいか、たいして高価でない紺でも、随分洗いが利いて丈夫だったものです。  
 — 私は、どうもセルを好きません。何だか小柄でむくむくしていますせいか、セルを着るかわりに、袷から単衣にすぐ変りますが、いまでもセルがわりに紺紺を着ております。

セルでも、昔は柔かい薄地のカシミアと云うのがありましたが、あれは着心地がよかった  
 ものです。でも、カシミアは大変高価だったので、清貧楽愁の私の家では、私に紺紺はか

りを着せてくれました。

男のひとでも、この頃は段々洋服がふえましたせいか、染のいい緋を着ているひとを見なくなりましたが、日本の青年には紺緋は一つの青春美だとさえ思います。私たち娘の頃、紺緋を着た青年はあこがれの的であつた位です。これ位、また、青年によく似合う着物は他にないのですから、緋屋さんの宣伝をするわけではありませんが、もつと紺緋を着て貰いたいものだと思います。洗いざらした紺緋は人間をりりしくみせます。

この頃は人絹じんけんが大変進歩して来て、下手なメリンスを買うより安いと云うのですから、田舎出いなかでの娘さんたちは、猫も杓しやくし子もキンシャまがいまがいで押しているようです。人絹もいいにはいいでしょうが、もつと、どうにかならぬものかと考えます。如何いかにも国粋主義のようです、もつとシャツキリしたものに眼をつける娘さんたちがいないのを残念に思います。趣味をもつと優しく内気にしてほしいと思います。この間、ある百貨店へ木綿を一いったん反買ひたんいに参りましたが、木綿のいいのが少しも見当らないのでガツカリしました。木綿で拾円もするようなのはなくなつてしまつたのでしよう。呉服部のところを歩いてみますとまるで博覧会へ行つたようなケンランさで、飛びつくような柄がらがすこしもないのです。年齢のせいばかりとは云えないほど、色々な呉服ものの染の悪さに、今さら変つたものだなと愕おどろ

いてしまいました。おなじ紅色にしても、昔の紅色は奥行きがあったように思えます。世の中が進歩しているはずなのに、柄模様ときたら、よくもあれだけセツレツに出来たものだと愕くほどでした。——先日も座談会で山脇敏子やまわきとしこさんが話されたように、いまの絹物にはのりの多い地じへゴム印を押ししたような模様が多いのです。立ちどまってみているひとを見ますと、どこがいいのかしらと思う位です。そんな、デパート選出の柄にみとれている奥さんたちの足袋たびときたら、うす汚れていて、下駄は乱暴なものだったりします。下駄と云えば表つきはきらいです。とくにこの頃のように流行はやる靴の型はどうも好きません。足袋は木綿でコハゼがきつい位なのが私にはあいます。絹の着物の場合はキヤラコをはきますが木綿が一番はき心地がよくて好きです。

昔、（よく昔の話を云いますが）ヒフ「被風」

と云うものが流行っていました。胸に房をつけて随分いいものだったと思います。あんなのがもう一度娘さんたちの間に流行ってくれないものでしょうか。メリンスとか銘仙めいせんのようなもので不断ふだんぎ着にヒフをつくって着るのは温かでもいいだろうと考えます。私はいい着物について語るしかくを持ちませんが、不断着はよそぎよりも、もっと考えてもいいと思います。筒袖つつそでの袖口を花のように絞って着せられていた頃もありましたが、洋服の合間

には、そんなロマンチックな不断の着物もあっていいと思います。

街を歩いていきますと、この頃は初夏だから、みんな薄いシヨールをして、帯を高く締め、腰の線まるだしのお尻の辺へ、大きなチュウリップの模様なぞつけた女のひとを沢山みますが、私はきらいです。利口な女のひとは帯をひくくしめて下さいと云いたい。娘さんだって帯はゆったりとひくく締めている方がたつぷりして美しくみえます。

それから、もうひとつ女の洋装のこと、洋服を注文するひともされるひとも気がついて、いるのかいないのか、どうなのかなと考える事は、娘の軀からだも年増としまの軀もごっちゃだと云うことです。

巴里パリから帰りました時、一番おかしかったのは女学生がセーラアのスカートをかかとの辺まで長くして、腰の下ですぼんだ年増のスカートをはいっていたことです。女学生はやっぱり大根足のニュウと出た短かいスカートの方が神聖で愛らしくていいと思います。十八、九歳頃までは少女型のあどけないデザインの服をすすめたく思います。それと反対に、いとしま年増が女学生のようなサキユウラの短かいスカートをひらひらしていらしつしやるのをいまでも見かけますが、年増の方は腰の線の出た長い服を召して下さいと云いたいのです。お化粧のことも、娘さんはなるべく清楚せいそにと思えます。映画の真似なのか、剃そった眉まゆの上

に眉を描いていて、四本の眉を持った女のひとに時々会いますがぞつとしてしまいます。アイシアドウも、よき家庭の娘はつけません。美容師の方たちにおこられそうだけれど、日本の西洋流の化粧は田舎つぺだと思えます。(と云って、お前はどうかと云われたら、私は大田舎つぺだと逃げておきます。ただしその田舎つぺは西洋流でないだけです)

利口な女のひとの何気ない化粧と何気ない趣味の着物にあうと、浸<sup>し</sup>み透るものを感じます。何も高価なものばかりが高い趣味ではないのですから、もつと、若い女の方たちが個性のある好みを持つてほしいと思えます。さてまた、緋の話になりますが、染のいい緋を着るひとが沢山にならないものでしょうか。さつま緋、久留米緋<sup>くるめ</sup>などは勿<sup>もちろん</sup>論<sup>ろん</sup>しつかりしたものでしょうが、かえって、場違いの土地でいい緋をつくっている所を田舎へ旅してみかけることがあります。紺緋<sup>ほか</sup>の外に好きなのは鹿児島<sup>どろぞめ</sup>の泥染の大島です。洗うほどきれいです。私はかつこうがあまりよくないので手固<sup>たの</sup>いものを愛します。——さてそろそろ夏が来ますが、浴衣<sup>ゆかた</sup>を着られるのはまた何としても愉<sup>たの</sup>しいことです。何が何だと云っても浴衣の着心地は素敵<sup>すてき</sup>です。巴里ではどんなにか浴衣が恋しかったものでしたが、おそらく、浴衣のように肌ざわりのすずやかな着物は他の国にあまりないでしょう。二、三度水をくぐらせた頃の浴衣はなかなかいいし、柄は単純なのが好きです。

よく、呉服屋では高価な衣裳祭はしても、浴衣祭と云うのをしません、浴衣こそは、ブルジョワもプロレタリアも祝つていいと思います。ただし、不思議に浴衣だけは、「やはり野におけ蓮華草」で、昼間の外出着にならないのが残念です。浴衣に襦袢の襟を出し、足袋に草履をはいたら何ともなさない姿になりましょう。

夏になるとあつぱつぱと云うのが流行りますが一風景です。なかなかいいと思います。一度着てみたいと思います。だが、やつぱり私はみえ坊だから、「層々として山水秀ず、足には遊方の履を躡み、手には古藤の枝を執る」の境地をもとめてりりしい着物を愛します。あつぱつぱも随分りりしくありますが、そのりりしさよりも、浴衣に襷がけのりりしさを愛します。浴衣の女が手足の爪をきちんと剪っているのはなかなか涼しいものではないませんか。——さてこうして書いてみると、私の趣味も至って平凡ですが身にあつたことが一番でしょう。——高価な衣裳の趣味はいずれ誰かおかきになるでしょうから……。私はいったい木綿主義ですが、絹物でも白地を買って自分で色や模様を工夫して染めに出すのが好きです。なかなか愉しみです。女にとって着物の話位何よりもたのしいものは他にありません。——





# 青空文庫情報

底本：「林芙美子随筆集」岩波文庫、岩波書店

2003（平成15）年2月14日第1刷発行

底本の親本：「林芙美子全集」文泉堂出版

1977（昭和52）年

「林芙美子選集」改造社

1937（昭和12）年

入力：岡本ゆみ子

校正：noriko saito

2008年3月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 着物雑考

林芙美子

2020年 7月18日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>